

新・新興国ミャンマーの最新事情



2011年4月22日

ESD21顧問(理事)

鈴木 明夫

本日のトピックス

1. ESD21のミャンマーとのかかわり
2. ミャンマーでのセミナー概要
3. ミャンマー一般基本情報
4. 日本とのかかわりが深いミャンマー建国の歴史
5. ミャンマーの観光資源
6. 々 政治情勢
7. 々 経済情勢
8. 々 投資環境

1. ESD21のミャンマーとの関わり

“**MYANKICHI!!**”によるESD21特別企画事業
「**鈴黒コンサルタント？**」の推進

- ESD21会員へのミャンマー情報提供
- ESD21会員によるセミナー・研修会支援
- ミャンマー／日本の個別企業交流支援

2. セミナーと会社訪問

1) セミナー：

去る2月、ビジネス情報誌「The Future」の出版記念セミナーに黒岩会長、和澤理事長と鈴木顧問がミャンマー側パートナーに招かれ「TPSの基本原則と実践の有効性」について講演をした。セミナー会場では総選挙での「民政移管」と15年のASEAN統合に向かっての参加者の熱い視線を強く感じた。

2) 会社訪問：

- ・SSS社
- ・MDCR社

セミナーの様子

セミナー会場の
案内板



黒岩会長の講演



講演会場(315名の参加者)

SSS社訪問

本社前で
社長など幹部と

工場内を視察



MDCR社訪問



執務風景



朝礼風景

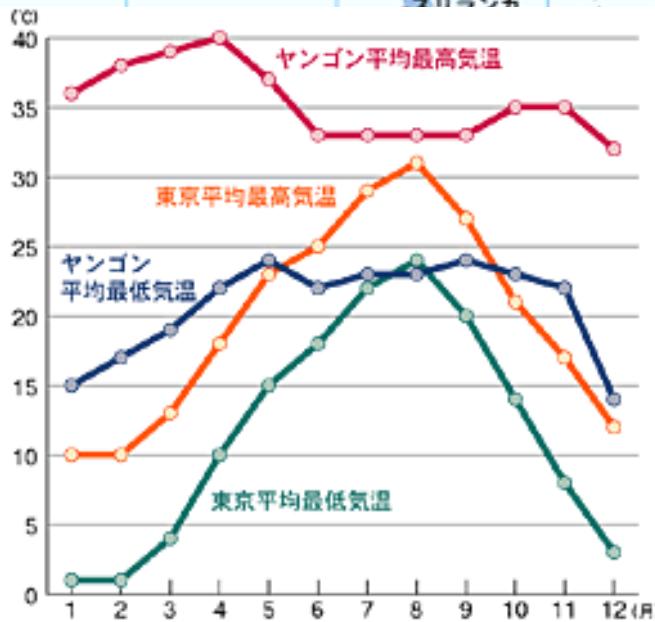


Myanmar DCR Co.,Ltd.
System Development Company



3. ミャンマー 基本情報

1) 地理



2) 国民、GDP

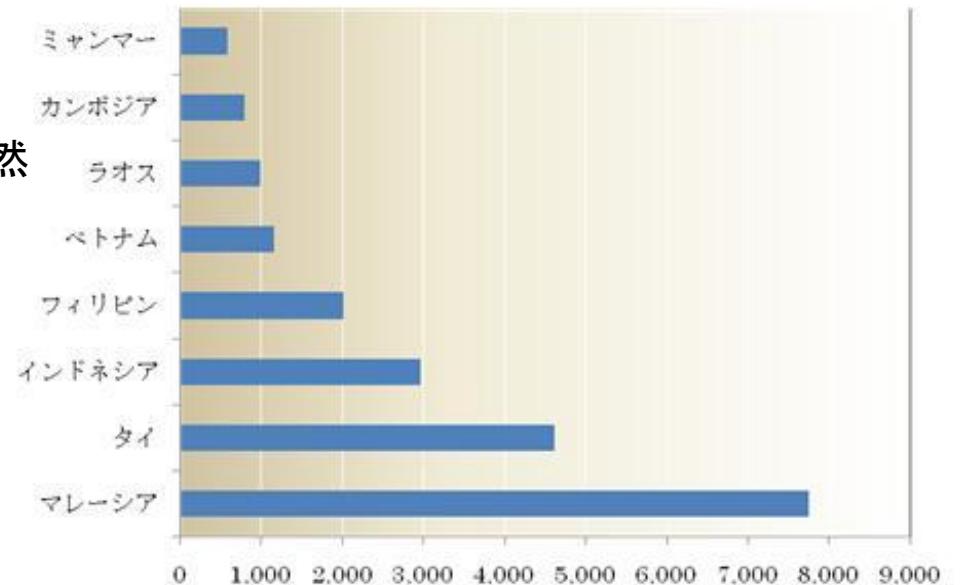


ミャンマー連邦

★2010年10月制定
 黄色:国民の団結
 緑色:平和と豊かな自然
 赤色:勇気と決断力

項目	内容
国名	ミャンマー連邦共和国(1989年)
通貨	チャット(1000チャット／US\$)
面積	約68万km ² 日本の1.8倍
人口	5880万人(2009年アジア開発銀行)
首都	ネピードー Naypyidaw (2006年10月にヤンゴンより遷都)
民族構成	ビルマ族70%、シャン族8.5%、カレン族6.2%、 ラカイン族4%、華人3.6%、モン族2%、インド人2% 135の民族
宗教	85%仏教徒(南方上座部仏教)、キリスト教徒4.9%、 イスラム教4%、ヒンドゥー教、アニミズム、など

図表2 ミャンマー及び周辺諸国の1人当たりGDP(IMFによる2010年予想)
 (ドル)

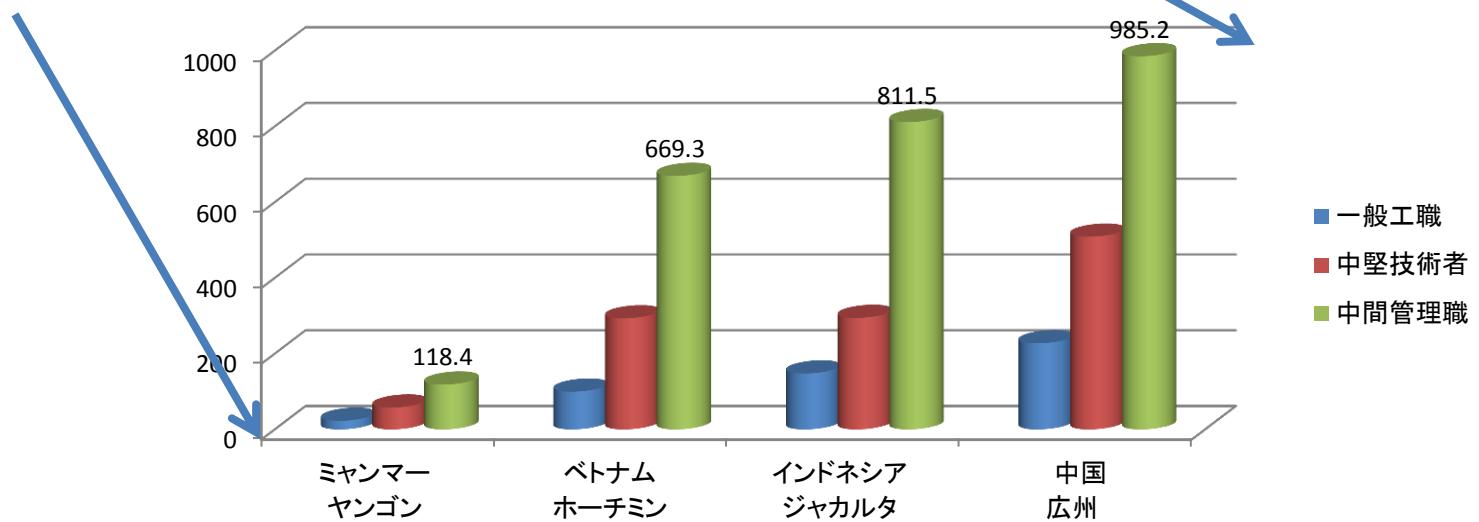
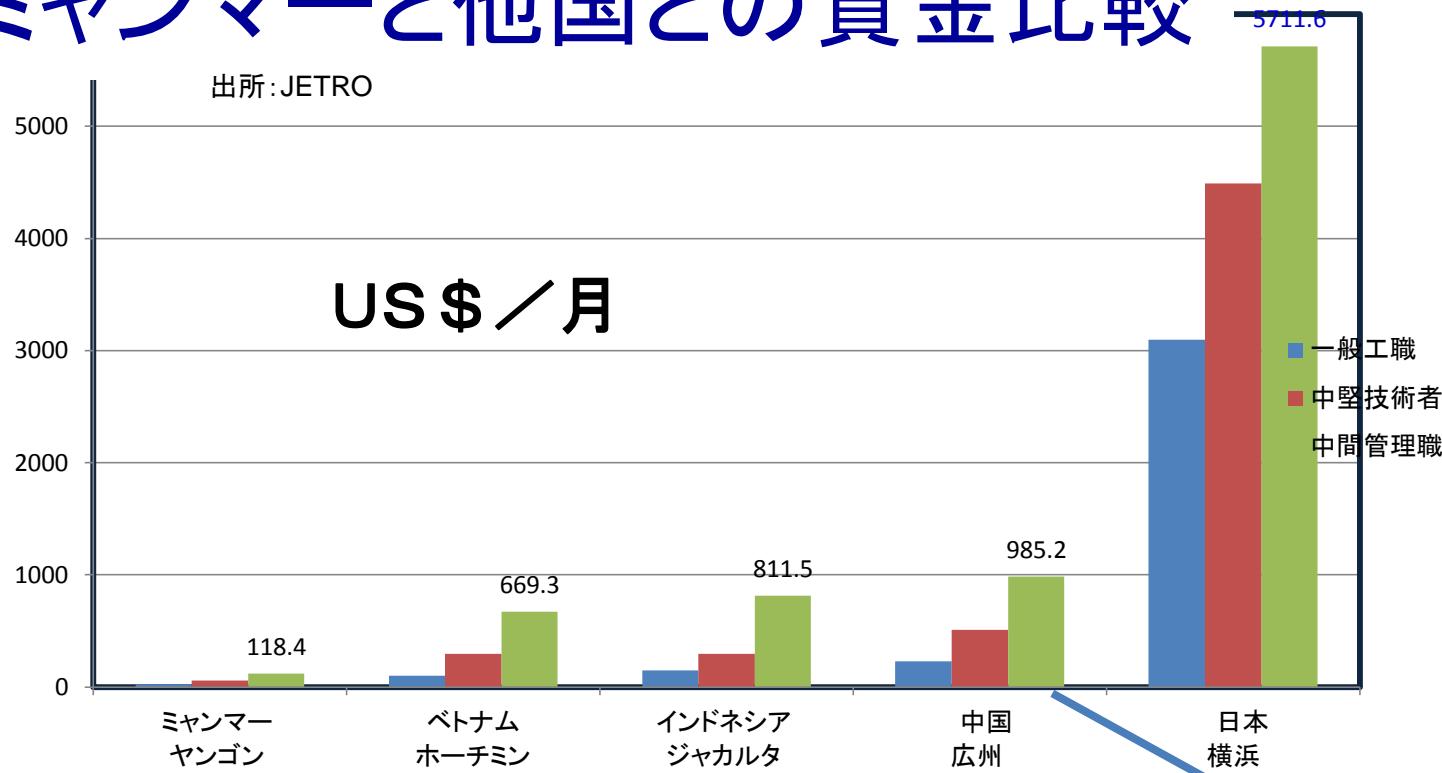


(出典) IMF World Economic Outlook Database October, 2010



チャット

3. ミャンマーと他国との賃金比較



4. 日本とのかかわりが深い ミャンマー建国の歴史

年表	
1044年	ビルマ人による統一王朝成立
1886年	ビルマ最後の王朝が英国との敗戦により、英國領インドに編入
1941年	日本軍が侵攻、ウンサンら民族主義者と連係し、ビルマ独立義勇団を結成し、指令官に鈴木大佐就任。3ヶ月で首都ラangoーン陥落、英國軍を敗走させた
1943年	日本が(形式的に)独立承認、インパール作戦敗色濃厚なるや、ウンサンは英國から独立の約束もらい、寝返って反日に転ずる
1945年	太平洋戦争終戦、英國領に復帰
1947年	ウンサン暗殺(その後の混迷原因)
1948年	ビルマ連邦として独立
1954年以降は友好関係、 多額の援助、	2003年以降は人道面のみ

5. 觀光資源



ミャンマー(観光)最大の見どころ！

1044年ビルマ族による、史上最初の統一王朝が開かれた土地数千もの仏教建築物が林立し、世界最大級で最高の仏教遺跡。
世界遺産未登録。

世界三大仏教遺跡
隠れた遺産

バガン



シュエダゴン・パゴダ (ヤンゴン)

起源は2500年前
原型は15世紀中期



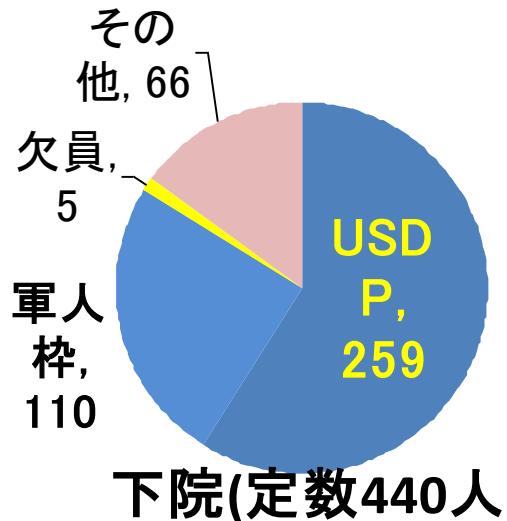
多くの寺院も



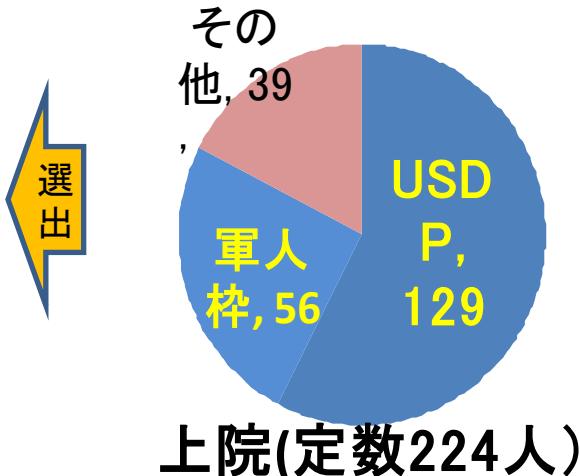
6. 政治情勢

- 3月30日 **テイン・セイン**(元首相) **大統領就任**
49年続いた軍政から「**民政移管**」完了。
- プロセスは2008年憲法制定、昨年11月の
総選挙、今年1月からの国会開催
- 新国軍司令官ミン・アウン・フラン大将就任

注:USDP=連邦団結発展党



テイン・セイン大統領



- 同国への経済制裁解除について
<制裁中>欧米・加・豪
<支持>中・露・印・ASEAN

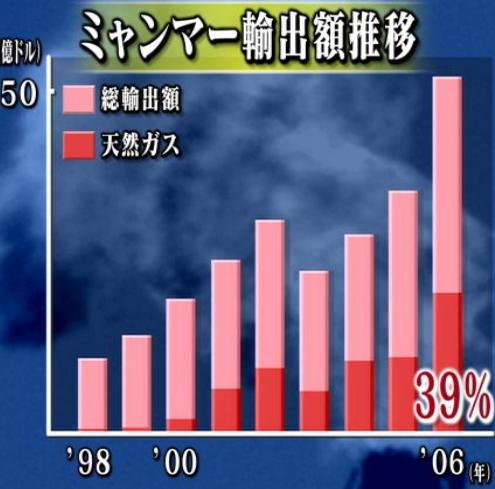


- 1) 東南アジア諸国連合(ASEAN)は、総選挙の実施と民主化指導者(国民民主連盟NLD)スーチーさんの軟禁解除で、欧米に制裁解除求めた。
- 2) 日本政府も一定の評価。
(朝日2月8日付)

7. 経済情勢

- ①国内:低迷しながらの安定
- ②国際:ミャンマーの実質GDP成長率=3.1%(2010年)→4.3%(2011年):経済は拡大傾向
(2009年英国経済誌『エコノミスト』EIU発表)

天然ガスが最大の輸出品目

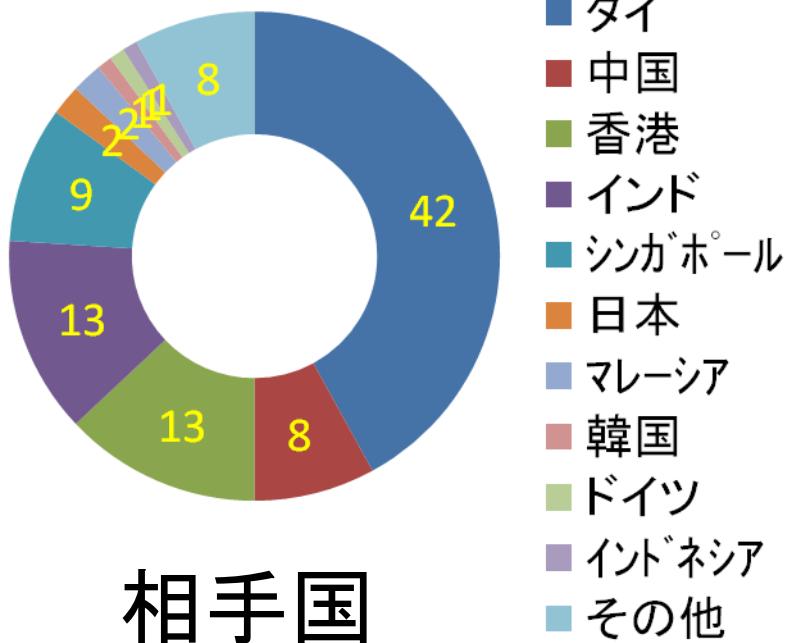


ASEAN後発国の経済状況

	ミャンマー	ベトナム	カンボジア	ラオス
人口(万人)	5,880	8,635	1,367	626
面積(Km ²)	68	33	18	24
GDP／人(\$)	551	1,050	730	841
経済成長率	4.4	5.3	-0.4	6.5

交際通貨基金、アジア開発銀行のデータより 2009年

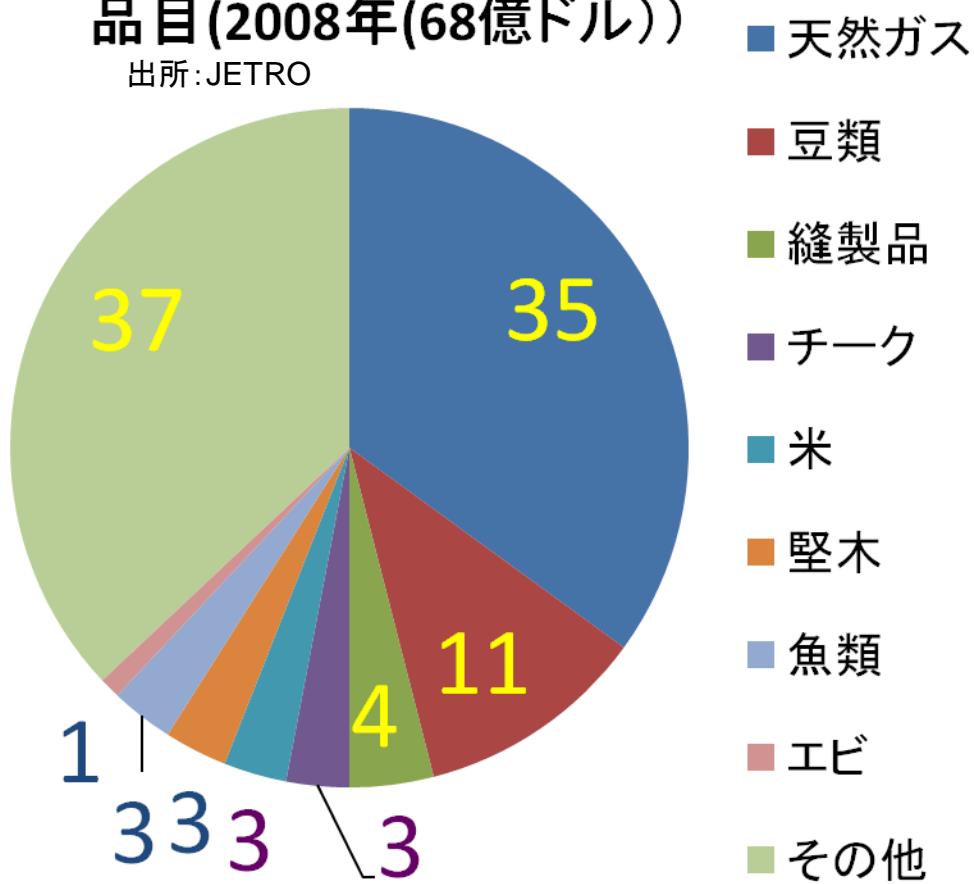
③輸出



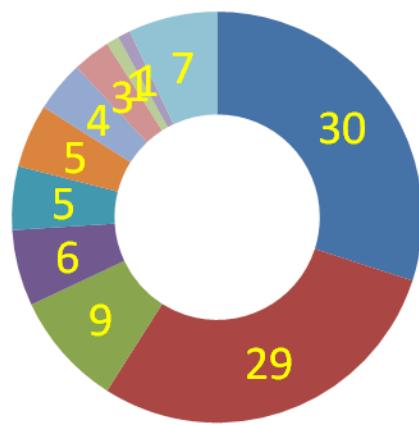
ガス田

資源は近隣・友好国へ
牽引する天然ガス輸出

品目(2008年(68億ドル))
出所:JETRO



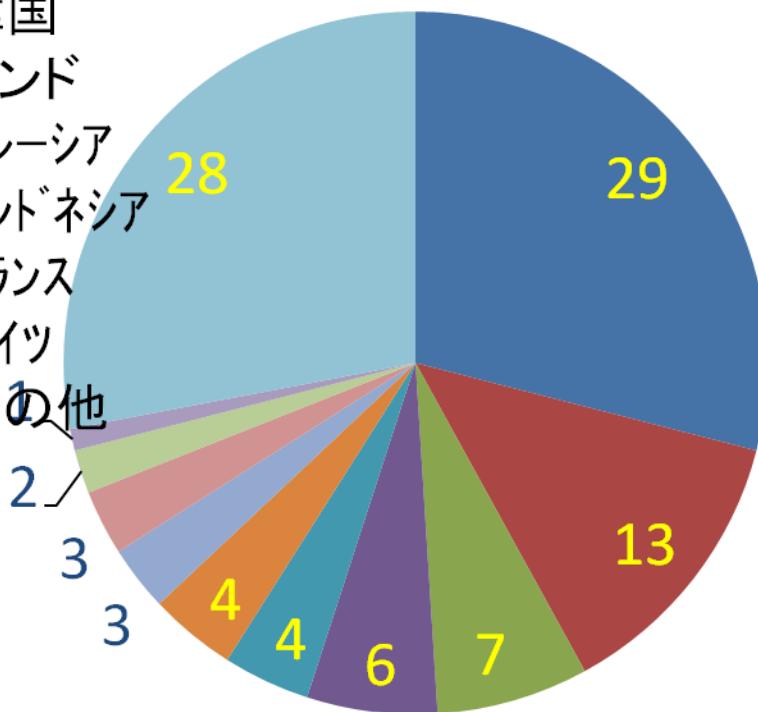
④輸入



相手国

中国・シンガポール・タイから
約70%

出所:JETRO



品目 2008(46億ドル)

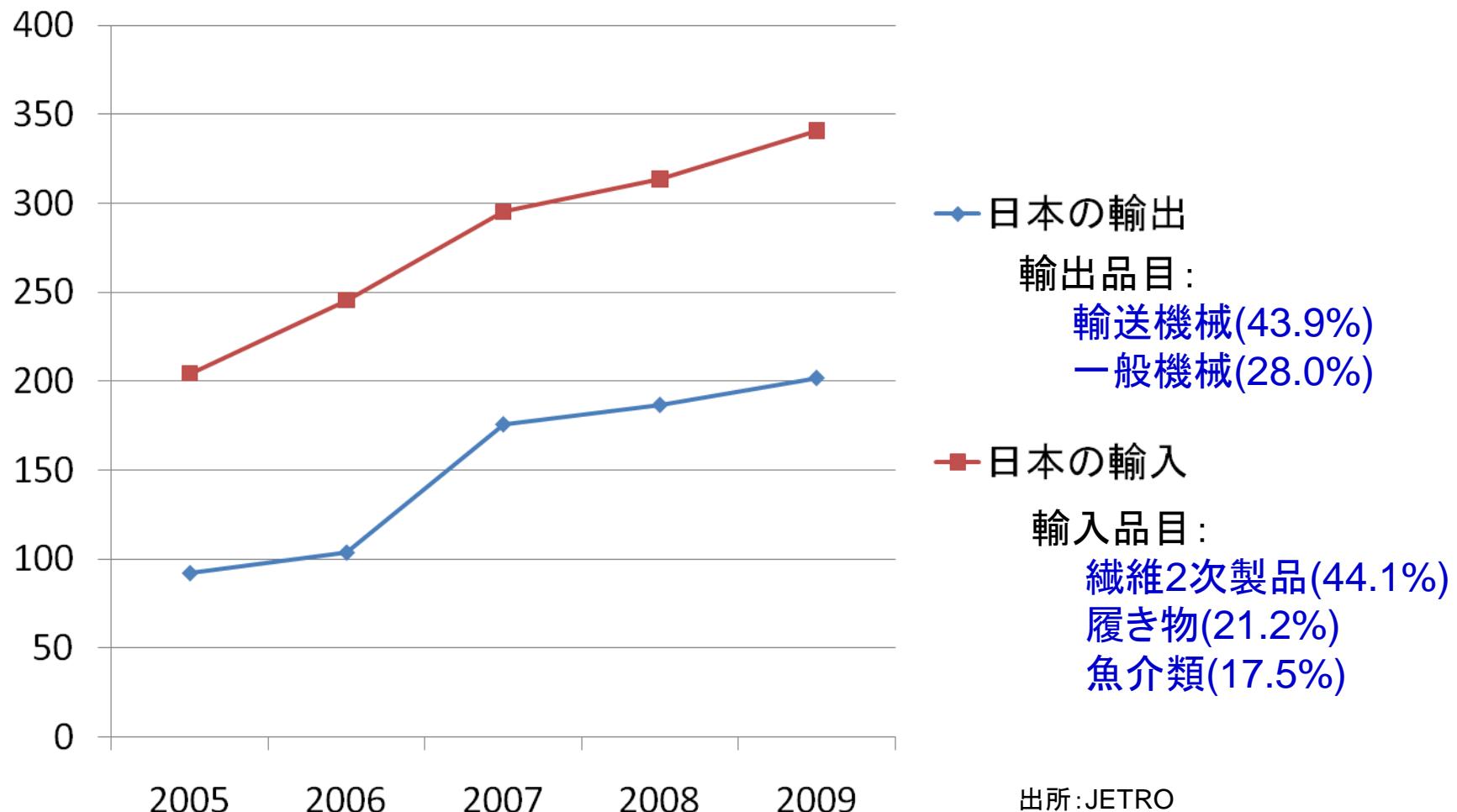
- 一般・輸送機械
- 精油
- 卑金属・製品
- 食用植物油
- 電気機械器具
- プラスチック
- 合纖織物
- 医薬品
- 紙、同製品
- ゴム製品
- その他

⑤日本との貿易推移

(単位:百万US\$)

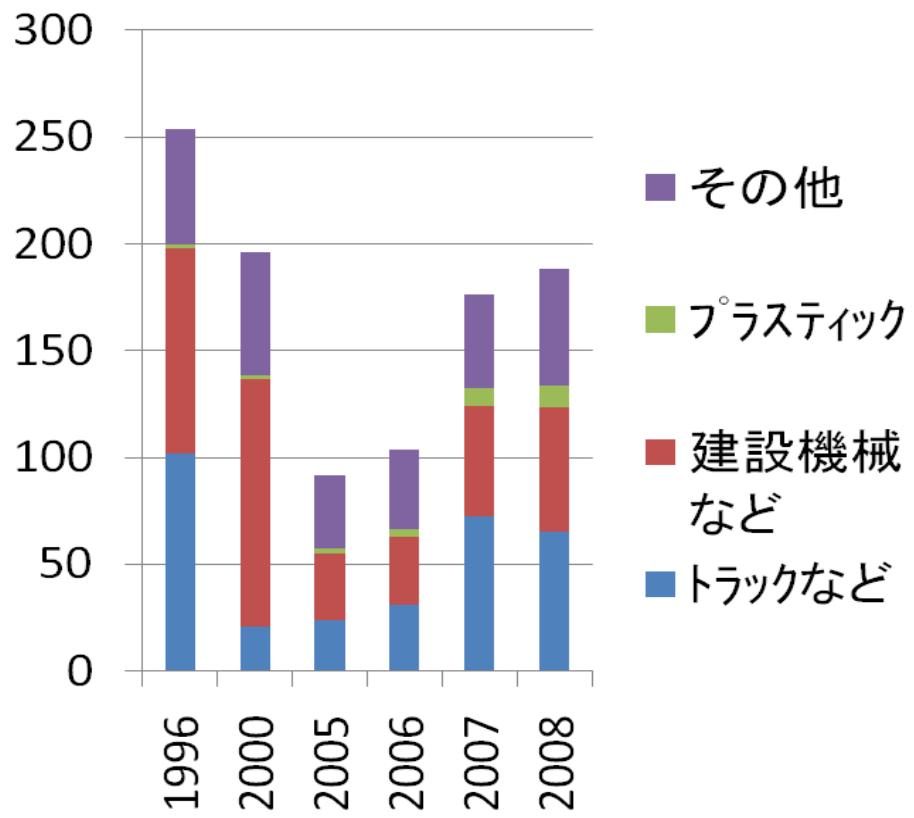
特徴: 輸出:中古機械類重点

輸入:労働集約型製品

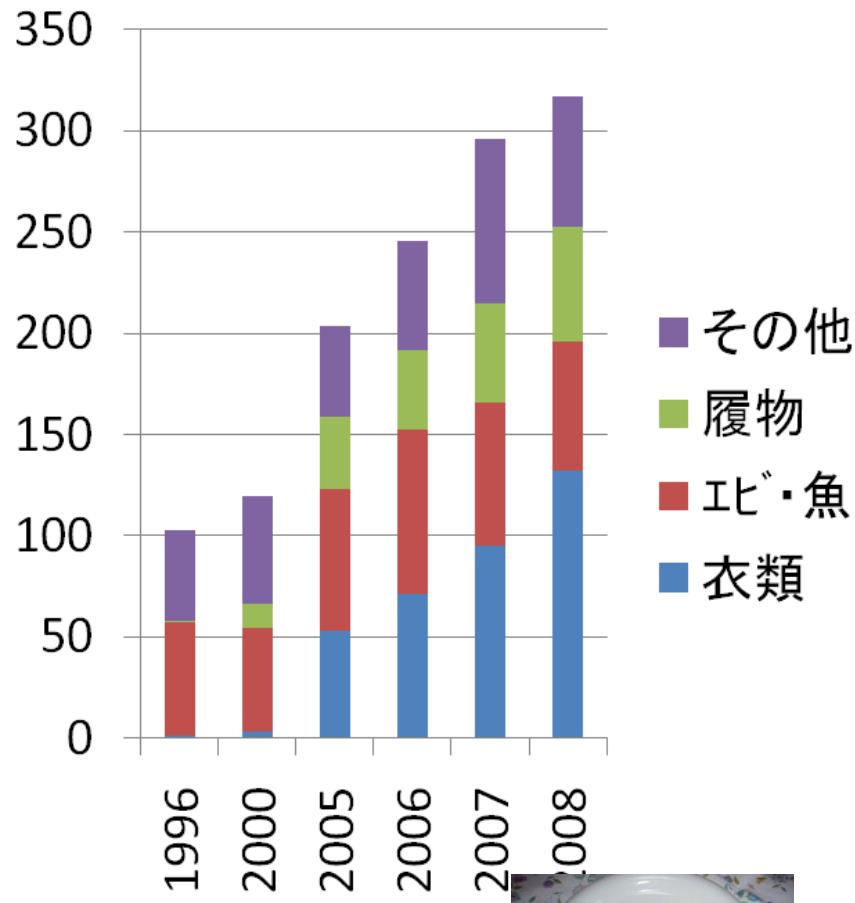


出所:JETRO

2) 日本から輸出(商品別)



3) 日本へ輸入(商品別)

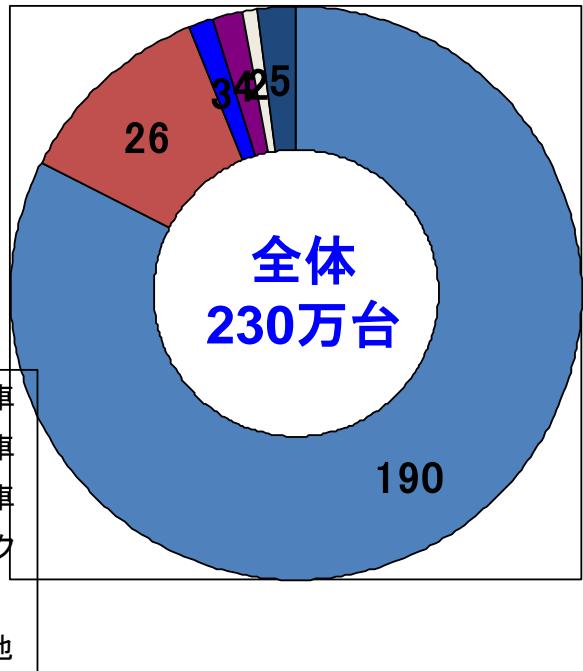


(単位: 百万US\$) 出所: JETRO



⑥ミャンマー自動車事情

1. 車種別保有台数(2010年9月 単位万台) 出所:同国政府発行資料



二輪車を除くと三輪以上の車両は41.3万台で
日本とミャンマーの人口比
(128百万人/50百万人=2.56)を
掛けると約106万台で、
日本の昭和29年(109万台)頃に相当



元名古屋市バス



元トヨタオート



元自動車学校

日本の中古車が

日本語を書いたまま大活躍

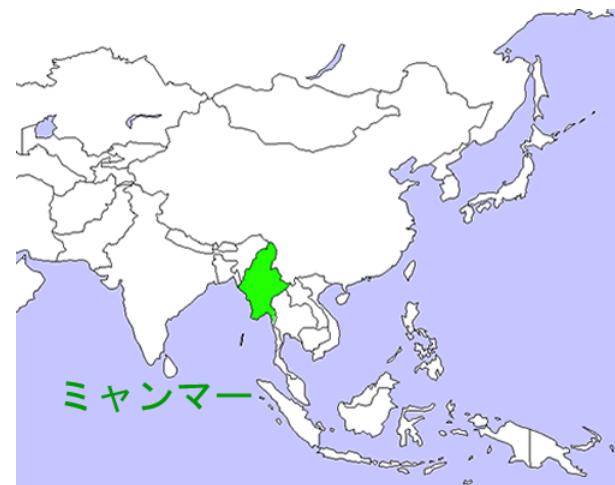
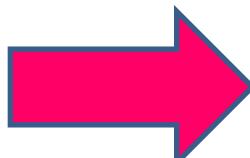
2. 自動車生産

- 1)大型トラック:インド タタモーターズ社 2010年12月生産開始
- 2)商用車(主流):SSS社ほか数社中国からのKD生産 2010年11月生産開始
- 3)日系企業はスズキ(合弁)が1998年に進出

8. 同国への投資環境の現状

- 1) 人口5880万人、豊富な天然資源、
ASEANの中で最も廉価で優秀な人材で
投資先、将来は国内消費市場でも有望。
- 2) 労働集約型産業先行
- 3) 日本企業の海外進出先 (JETRO調べ)
 - ・中国 : 27, 000社
 - ・タイ : 1, 300社
 - ・ミャンマー : 51社

何故？



4)ミャンマー経済発展の原動力

2000年代半ば以降、天然ガスの発見

により手助け=>ASEAN諸国、中国、

インド から外貨が流れ込む構造が定着

5)ミャンマー側は歴史的に長い深い関係の

日本からの投資や技術移転、技術支援

を強く望んでいる。

TPSはじめ新しい経営手法の導入熱意や

品質追求に対する思考や国民性は強く感

じられる。

6) 貿易・投資上のメリットと課題

メリット

- ・豊富で安価な労働力
- ・対日感情の良さ。仏教徒の価値観。治安不安ない
- ・豊富な天然資源。広大で肥沃な国土。農産物豊富
- ・地理的重要・優位性。対中・印・アセアン・欧・中東
- ・消費市場としての魅力(5880万人、ヤンゴン600万人)
- ・日本向け特恵関税適用

課題

- ・政治動向の的確把握
- ・電力供給面。(大型水力発電計画)
- ・投資・貿易許可取得や外為困難さ(有力相手必要)
- ・対日貿易物流面の問題(星、馬経由3~4週間)

7)特別経済区法の制定 (2011年1月27日)

(1)特別経済地帯

高度技術工業地帯、情報・通信技術地帯、
輸出製品生産地帯他政府が規定する地帯

(2)特別経済区での特権

- ・所得税他免除・減税権
- ・輸出品生産のために輸入する原料類、
燃料、設備機械、企業用自動車等の
輸入許可と輸入税免除

結論

これからのミャンマーに目が離せない。
今年のミャンマーはいろいろサプライズがありそうと強く感じた。

そのためにも今後、ESD21としてミャンマー側パートナー及びESD21の会員相互の連携強化による情報共有(相互理解)と現地人脉づくりが効果あるものと考える。

ご清聴ありがとうございました



ミャンマーの明るい未来のために